

2010

学校法人
金沢医科大学
平成22年度事業報告書

平成22年度 事業報告書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)



金沢医科大学

2011. 5.30

平成22年度 事業報告にあたって

金沢医科大学は、「1. 良医を育てる」「2. 知識と技術をきわめる」「3. 社会に貢献する」、この三つを建学の精神にかかげ、患者さんの立場に立って最も適した医療を提供できる医療人の育成にまい進してきました。

1972年に開学し、来年には開学40周年を迎えることとなります。これまでに、医学生は約3,400名、看護学生は約2,000名が巣立ちました。それぞれ国内外で活躍され、社会に対して種々の貢献がなされております。

平成22年度は、前年度に引き続き、次の世代を支える医療人を育成する機関として、必要な人材の受け入れ、必要な設備の充実、高度先進医療機器・高額機器などの更新を行ってまいりました。

法人部門では、グランドデザイン第1次5ヶ年計画が本格的に動き出し、最初の事業として新アトミーセンターを建設しました。大学部門では、受験生の確保や医師国家試験、看護師国家試験の合格率向上及び研究の活性化を図るとともに先進的医学研究を通じて産学官連携の拡充につながる教育研究事業を実施し、病院部門では、収支改善を図るとともに看護師不足の対策や就業環境改善を行ってきました。また、金沢医科大学氷見市民病院では新病院建設が始まりました。

その結果、大学本体及び金沢医科大学氷見市民病院の収支差額はわずかながら収入超過となりましたが、今後とも収支バランスを考慮しつつ経営改善への努力が必要と考えております。

今後も学内外ともに厳しい環境下にあります。教育水準、診療活動、そして研究面での活性化の向上を図りながら、本学が多くの方面からの期待に応えることができ、高い評価を得る大学をめざして、さらなる発展を期して教職員とともに力を合わせて努力して行きたいと考えております。

学校法人 金沢医科大学
理事長 竹 越 襄

目 次

平成22年度 事業報告にあたって.....	3
-----------------------	---

I 法人の概要

1 . 建学の精神	6
2 . 教育目標	6
3 . 学校法人の所在地	7
4 . 沿革	7
5 . 組織	9
6 . 役員・評議員・教職員の概要	10
7 . 設置する学校・学部・学科等の名称及び定員等	12
8 . 附属研究所及び病院	12
9 . 設置する学校・学部・学科長等	12
1 0. 入学試験の状況	13
1 1. 1. 医師国家試験合格率	13
1 2. 2. 看護師等国家試験合格率	14
1 3. 3. 学位授与状況	14
1 4. 4. 学生数の推移	14
1 5. 5. 外部資金の獲得状況	14
1 6. 6. 国際交流の推進	15
1 7. 7. 大学病院の稼働実績に関する資料	17

II 事業計画の進捗状況

1 . 法 人 部 門	
1) 金沢医科大学グランドデザイン第1次5ヶ年計画	19
2) 特別高圧2回線化及び特別高圧変電所の設備更新(3ヶ年計画)	19
3) 各種設備の整備	20
4) 給与システムの更新	20
5) 創立四十周年の記念史発行	20
2 . 大 学 部 門	
1) 入学志願者の確保	20
2) 医学教育の充実	21
3) 研究の活性化	22
4) 看護学部の充実	23
5) 北陸がんプロフェッショナル養成プログラム	24
6) 図書館の電子化(電子ジャーナルの維持)	24
7) 能登北部地域医療研究所	24

3 . 病 院 部 門	
1) 患者サービスの向上.....	25
2) 医療安全の確保.....	25
3) 医療の高度化と質の向上	26
4) 地域連携・地域貢献.....	27
5) 教育研修(初期臨床研修医)	27
6) 人材確保と就業環境の改善(看護職員).....	28
7) 医療機器等の整備	28
8) 施設設備整備	29
9) 収支改善	29
1 0) 組織運営	30
1 1) 平成22年度経営管理指標の達成状況	30
4 . 金 沢 医 科 大 学 氷 見 市 民 病 院	
1) 診療実績の状況.....	31
2) 診療体制の整備.....	32
3) 医療経費の削減.....	33
4) 新病院建設.....	33
5) 医療機器整備	34
6) 経営指針	35
7) 職員数.....	35
Ⅲ 財務の概要	
1 . 平成22年度決算の概要	36
2 . 最近5ヶ年の財務状況	43
3 . 平成22年度金沢医科大学氷見市民病院決算の概要.....	48

I 法人の概要

1. 建学の精神

◇良医を育てる

倫理に徹した人間性豊かな良医を育成する

◇知識と技術をきわめる

医学の深奥をきわめ優れた医療技術を開拓する

◇社会に貢献する

生命の尊厳を基調とし人類社会の医療と福祉に貢献する



2. 教育目標

【医学部】

医学部の教育の基本目標は、建学の精神に述べている「人間性豊かな良医の育成」にある。

「良医」とは、「常に患者の立場に立って考え、個々の患者に最も適した医療を提供できる、そして、それを可能とする知識と技術に精通した医師」である。医学部の6年間の卒前一貫教育、それに続く卒業後初期臨床研修、専門医研修、そして大学院においては、まず医師としての人間形成を基本においたうえで、知的好奇心を育み、問題に立脚した解決能力を磨き、急速に進歩する医学に対応して生涯にわたって自己研修を行って未来を開拓していくことができる能力を獲得することを常に基本目標におき、良医育成のためのカリキュラムを展開している。

【看護学部】

1. 看護職に必要な確かな知識と技術の修得

看護の対象となる人が、その人にとって最高レベルの健康を維持・増進できるように援助するために必要な確かな知識と技術を修得する。

2. 問題解決能力の修得

複雑、多様化する社会状況の変化に柔軟に対応し、未知の課題に対応して幅広い視野からの確かな判断ができる能力(問題解決能力)を修得する。

3. 自己開発能力の修得

生涯にわたって、看護学の奥深さを極め、優れた看護技術を開拓し、看護の専門性を深めていくための自己開発能力を修得する。

4. 保健医療福祉チームと連携する能力の修得

保健医療福祉の現場で活動する多様な機関・他職種とともに、チームの一員として、共通の目標に向かって協働する能力を修得する。

5. 看護職として必要な人間性の涵養

看護の対象となる人を理解し、その人の人権と意思を尊重した看護が提供できる倫理観を備える。社会のニーズの変化を察知し対応できる豊かな感性と教養を備える。

3. 学校法人の所在地

石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地(〒920-0293)

4. 沿革

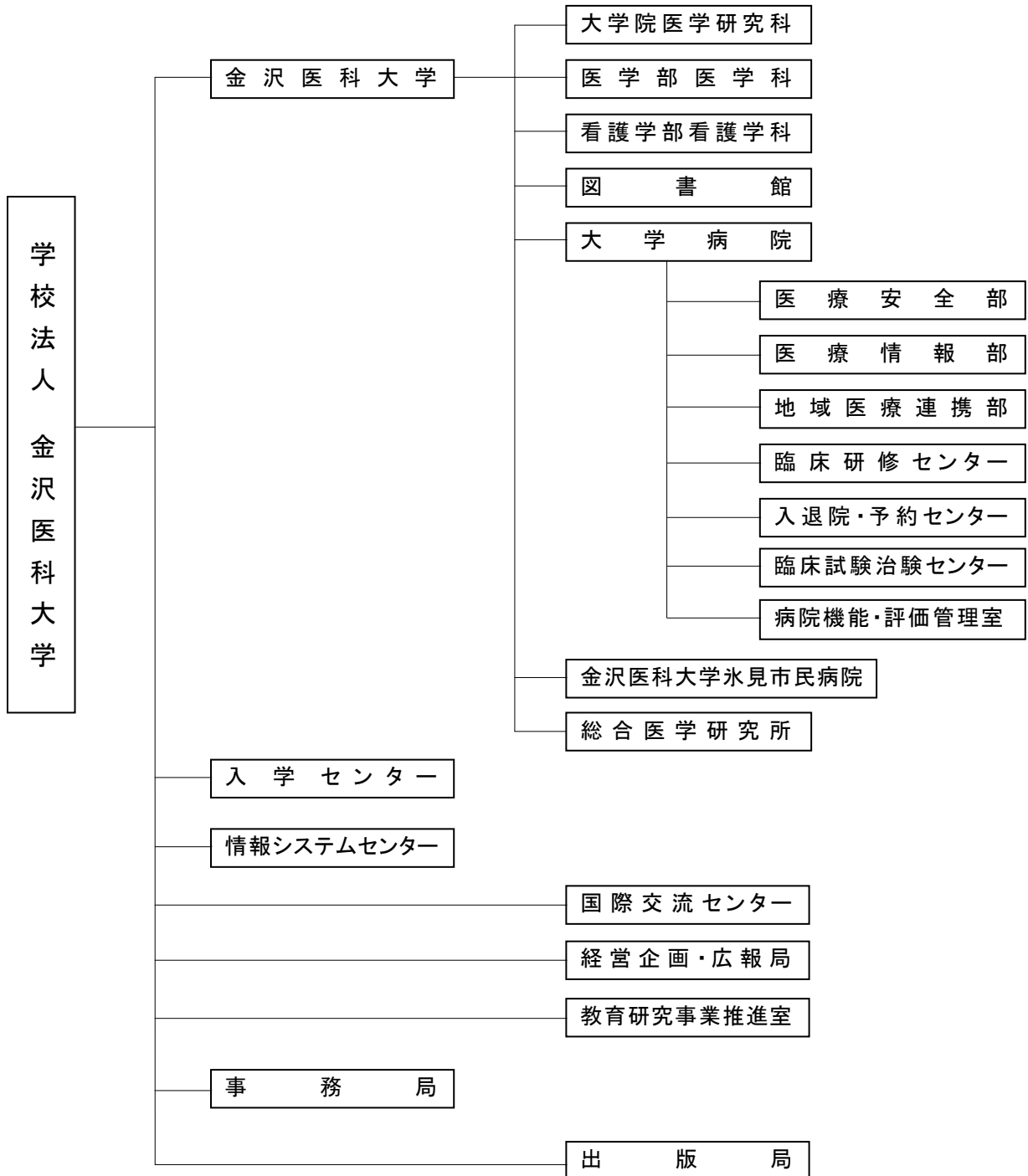
昭和47年	3月30日	学校法人金沢医科大学認可
	6月 1日	金沢医科大学開学
昭和48年	4月 1日	金沢医科大学附属看護学校開校
昭和49年	9月 1日	金沢医科大学病院開院
昭和50年	7月 1日	金沢医科大学歯学研究所開設
昭和57年	4月 1日	大学院医学研究科設置
昭和58年	4月 1日	熱帯医学研究所開設 人類遺伝学研究所開設
昭和62年	2月10日	金沢医科大学病院別館稼働
	3月31日	金沢医科大学歯学研究所廃止
昭和63年	4月 1日	金沢医科大学附属看護学校が附属専門学校に昇格

平成元年	4月 1日	総合医学研究所開設 (人類遺伝学研究所、熱帯医学研究所、共同研究室を統合)
平成 6年	3月24日	厚生省から特定機能病院に承認
平成12年	10月 1日	電子カルテ全科実施
平成15年	4月 1日	財団法人大学基準協会「正会員」加盟・登録承認 大学院医学研究科生命医科学専攻開設
	8月31日	病院新館竣工
平成16年	4月 1日	医学部講座組織の改組
平成17年	3月 1日	21世紀集学的医療センター設置
平成19年	1月22日	病院機能評価バージョン5認定
	4月 1日	金沢医科大学看護学部開設
	11月21日	氷見市民病院指定管理者に決定
平成20年	3月11日	財団法人大学基準協会大学基準適合認定
	4月 1日	指定管理者制度による金沢医科大学氷見市民病院 開設(私立学校法第26条の収益事業)
平成21年	3月31日	金沢医科大学附属看護専門学校 廃校
平成22年	8月 1日	能登北部地域医療研究所開設
平成23年	2月25日	新アトミーセンター竣工

5. 組織

金沢医科大学 組織図

(平成22年5月1日現在)



6. 役員・評議員・教職員の概要

役員・評議員・教職員の概要は次のとおり。

(平成22年5月1日現在)

【役員】

理事	理事長	山下 公一		
	副理事長	竹越 襄 (氷見市民病院最高経営責任者)		
	副理事長	松本 忠美 (総務担当)		
	常務理事	中農 理博 (事務局長)		
	理事	山田 裕一 (学長)		
	理事	飯塚 秀明 (病院長)		
	理事	高島 茂樹 (氷見市民病院長)		
	理事	小田島 肅夫		
	理事	宮村 栄一		
	理事	勝田 省吾		
	理事	篠原 治道		
	理事	伊藤 博		
	理事	奥名 洋明		
	理事	澁谷 亮治		
	理事	久藤 豊治		
	理事	飛田 秀一		
	理事	吉田 勝明		
	理事	中山 正喜		
	理事	木村 晴夫		
	理事	大野木辰也		
				以上 理事 20名
監事	水株 正紀	中村 行男	米沢 寛	
				以上 監事 3名

【評議員】

山下 公一	山田 裕一	飯塚 秀明	高島 茂樹
奥名 洋明	小田島 肅夫	勝田 省吾	久藤 豊治
篠原 治道	澁谷 亮治	飛田 秀一	宮村 栄一
大野木辰也	木越 俊和	木村 晴夫	小平 俊行
島 智一	中川 秀昭	中農 理博	中山 正喜
古居 滋	宮本 孝子	宮本 文夫	伊藤 透
大島 譲二	大山 充徳	緒方 盛道	角田 弘一
斎藤 人志	吉田 勝明	伊藤 博	大原 義朗
川上 重彦	鈴木 孝治	鈴木 宗幸	竹越 襄
土田 英昭	堂故 茂	梅 博久	姫野 洋一
松井 忍	松本 浩平	松本 忠美	八十出泰成
横山 隆昭	横山 仁		
			以上 評議員 46名

【教職員数合計】

(平成22年5月1日現在 単位:人)

年度	教員数		職員数		医員・臨床研修医		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
平成20年度 (計)	477	108	310	1,282	62	40	849	1,430
	585		1,592		102		2,279	
平成21年度 (計)	491	119	330	1,342	61	40	882	1,501
	610		1,672		101		2,383	
平成22年度 (計)	505	133	330	1,375	71	35	906	1,543
	638		1,705		106		2,449	

医学部教員数内訳

年度	教授		准教授		講師		非常勤講師		助教		助手・研究医(員)		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成20年度 (計)	63	8	53	3	45	7	179	18	121	45	10	6	471	87
	71		56		52		197		166		16		558	
平成21年度 (計)	74	7	48	5	49	6	176	22	128	47	10	6	485	93
	81		53		55		198		175		16		578	
平成22年度 (計)	75	6	57	5	49	10	183	26	123	47	9	12	496	106
	81		62		59		209		170		21		602	

看護学部教員数内訳

年度	教授		准教授		講師		助教		助手・研究医(員)		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成20年度 (計)	4	6	2	4	0	1	0	5	0	5	6	21
	10		6		1		5		5		27	
平成21年度 (計)	3	6	3	4	0	4	0	11	0	1	6	26
	9		7		4		11		1		32	
平成22年度 (計)	5	6	3	5	0	4	1	11	0	1	9	27
	11		8		4		12		1		36	

医員・臨床研修医数内訳

年度	医員		臨床研修医		計	
	男	女	男	女	男	女
平成20年度 (計)	34	23	28	17	62	40
	57		45		102	
平成21年度 (計)	31	23	30	17	61	40
	54		47		101	
平成22年度 (計)	44	17	27	18	71	35
	61		45		106	

職員数内訳

年度	事務系		技術技能系		医療系		教務系		その他		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成20年度 (計)	97	131	38	9	158	847	3	21	14	274	310	1,282
	228		47		1,005		24		288		1,592	
平成21年度 (計)	98	135	46	18	163	907	3	17	20	265	330	1,342
	233		64		1,070		20		285		1,672	
平成22年度 (計)	103	144	47	24	174	912	2	24	4	271	330	1,375
	247		71		1,086		26		275		1,705	

*技術技能系・・・技術職員・技能職員 *医療系・・・看護職員及び医療技術系職員
*教務系・・・研究補助員等 *その他・・・臨時・パート・補助員等

※金沢医科大学氷見市民病院を含む教職員数

7. 設置する学校・学部・学科等の名称及び定員等

平成22年度において、本法人が設置する学校・学部・学科等は下記のとおり。

(平成22年5月1日現在)

(単位:人)

学校名		入学定員	収容定員	現員
金沢医科大学	大学院 医学研究科	35	140	87
	医学部 医学科	110	620	672
	看護学部 看護学科	60 3年次への編入 10	260	256
合計		215	1,020	1,015

8. 附属研究所及び病院

名称	所在地
金沢医科大学総合医学研究所	石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地(〒920-0293)
金沢医科大学病院	石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地(〒920-0293)
※金沢医科大学氷見市民病院	富山県氷見市幸町31番9号(〒935-8531)

※金沢医科大学氷見市民病院は私立学校法第26条の収益事業。設置者は富山県氷見市。

9. 設置する学校・学部・学科長等

(平成22年5月1日現在)

金沢医科大学	学長	山田 裕一
医学部医学科	医学部長	梅 博久
看護学部看護学科	看護学部長	伊川 廣道
大学院医学研究科	研究科長	野島 孝之
一般教育機構	機構長	松田 博男
学生部	部長	芝本 利重
図書館	館長	牧野田 知
総合医学研究所	所長	竹上 勉
医学教育センター	センター長	佐久間 勉

10. 入学試験の状況

1) 医学部

① 入試状況

年 度	一 般						推 薦※			A O		
	志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※	入学者内訳			志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※	志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※
				現役	一浪	その他						
平成21年度	2,268	69	32.86	2	19	48	93	25	3.72	173	10	17.30
平成22年度	1,981	70	28.30	9	15	46	76	24	3.16	120	11	10.90
平成23年度	2,258	69	32.72	4	14	51	86	26	3.31	136	10	13.60

※平成21年度の推薦には指定校制推薦を含む。平成22・23年度の推薦には指定校・指定地域推薦を含む。 ※倍率＝志願者÷入学者

*編入学(第1学年後期編入)は除く。

2) 看護学部

① 入試状況(一般・推薦)

年 度	一 般						推 薦		
	志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※	入学者内訳			志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※
				現役	一浪	その他			
平成21年度	138	40	3.45	40	0	0	27	20	1.35
平成22年度	139	44	3.15	40	4	0	23	22	1.04
平成23年度	163	46	3.54	44	2	0	47	22	2.14

※倍率＝志願者÷入学者

② 入試状況(編入学)

年 度	志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※	入学者内訳			最終学歴	
				現役	一浪	社会人	短期大学	専門学校
平成21年度	9	6	1.50	3	0	3	0	6
平成22年度	3	1	3.00	1	0	0	0	1
平成23年度	4	1	4.00	0	0	1	0	1

※倍率＝志願者÷入学者

11. 医師国家試験合格率

年(回)	新卒者のみ	既卒者込	全国平均
平成21年(第103回)	81.2%	78.3%	91.0%
平成22年(第104回)	81.1%	77.9%	89.2%
平成23年(第105回)	82.5%	81.4%	89.3%

12. 看護師等国家試験合格率

平成23年国家試験(回)	平成22年度卒業生	全国平均
第100回看護師国家試験	100%	91.8%
第94回助産師国家試験	100%	97.2%
第97回保健師国家試験	94.1%	86.3%

13. 学位授与状況

(単位:人)

研究科	学位	平成20年度	平成21年度	平成22年度
医学研究科	博士(課程)	7	16	19
	博士(論文)	3	3	3
計		10	19	21

14. 学生数の推移

(単位:人)

学校名	学部・研究科・学科	平成20年度	平成21年度	平成22年度
金沢医科大学	医学部	654	659	672
	看護学部	126	192	256
	医学研究科	66	84	87
計		846	935	1,015

15. 外部資金の獲得状況

平成22年度

(単位:円)

		医学部	看護学部	総合医学研究所	一般教育機構	合計
1	科学研究費補助金	105,560,000	13,526,000	7,280,000	182,000	126,548,000
2	政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	103,019,850	-	66,633,318	-	169,653,168
3	民間の研究助成団体等からの研究助成金	9,360,000	-	-	-	9,360,000
4	研究助成金(奨学寄付金)	243,905,000	-	10,600,000	-	254,505,000
5	受託研究費	10,345,000	-	480,000	-	10,825,000
6	共同研究費	2,500,000	500,000	500,000	-	3,500,000
7	その他(研究関連収入)	6,533,280	-	-	-	6,533,280
研究費総額		481,223,130	14,026,000	85,493,318	182,000	580,924,448

- ・1, 2は、間接経費を含む。また、学外から配分された額(分担金)を含む。
- ・4～7は、申込書受付ベースの額。
- ・5は、治験を除く額。
- ・健康管理センター、内視鏡科等は医学部でカウント
- ・FDD-MBセンターは総合医学研究所でカウント

16. 国際交流の推進

国際交流センターを中心に、本学の国際交流活動の広報機能と業務を強化し、国際的な教育および研究を推進するための活動を展開した。

①医学研修の交換留学生等 (単位:人)

国名	大学名	学部	派遣	受け入れ
アメリカ	マーサ大学	医学部	3	2
	バーモント大学	医学部	7	0
	ハワイ大学	医学部	0	0
	テキサス A&M 大学	医学部	1	—
ドイツ	マクデブルク大学	医学部	1	—
合 計			12	2

②語学研修の派遣 (単位:人)

国名	大学名	学部	派遣
アメリカ	ハワイ大学	医学部※	10
	ソノマ大学	医学部※	11
合 計			21

※医学部・看護学部が対象であったが、参加者は医学部のみであった。

③姉妹校・協定校からの留学生・短期研究員等の受け入れ (単位:人)

国名	大学名	留学生(大学院)	短期研究員	短期研修員
中国	中国医科大学	2	2	—
	華中科技大学同済医学院	1	3	—
	中日友好病院	1	1	—
ベトナム	ベトナム軍医大学	2	0	—
ロシア	ヤロスラブリ医科大学	—	—	3
合 計		6	6	3

④海外訪問

国名	大学名	訪問者	内容	年月日
ロシア	ヤロスラブリ医科大学	山下公一理事長 他1名	ヤロスラブリ市 千年祭記念式典 出席	平成22年9月8日 ～9月15日
ドイツ	マクデブルク大学	山下公一理事長 他3名	学生派遣につい ての交流協議	平成22年9月28日 ～10月5日
中国	華中科技大学 同済医学院	梅原久範 国際交流委員長 他2名	附属同済病院 110周年記念 式典出席	平成22年10月14日 ～10月19日

⑤海外からの訪問者の受け入れ

国名	所属機関名	訪問者	内容	年月日
アメリカ	マーサ大学	William F. Bina, III 医学部長 他1名	入学式出席 (4/6) 教育懇談会にて 講演(4/5)	平成22年4月5日 ～4月7日
中国	華中科技大学 附属同済医 学院	馮敢生同済医学院 副院長 他5名	Joint Scientific Meeting 2010 開催(5/27) テーマ「腎移植」	平成22年5月26日 ～5月28日
アメリカ	バーモント大学	Frederick C. Morin 医学部長 他教員1名	交流協議 施設見学 教育懇談会にて 講演	平成22年9月20日 ～9月23日
ロシア	ヤロスラブリ 医科大学	Alexey V. Pavlov ヤロスラブリ医科 大学学長 他2名	交流協議 共同研究打合 施設見学	平成22年11月16日 ～11月18日
台湾	中山医科大学	学生 張志銘 他3名	眼科学研修	平成22年12月13日 ～12月14日
中国	大連大学	附属新華病院王志 軍病院長 他3名	交流協議 施設見学	平成23年1月25日

⑥パラオ共和国保健省との医療協力

平成21年度に医療協力に関する協定を締結し、パラオベラウ国立病院から送信されるCT画像に対し、放射線科・利波久雄教授がコメントの返信を行っている。

実績:33件(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

⑦国際交流センター事業

平成21年度に「研究・発表の支援」を計画・実施し、平成22年度には下記の事業を実施した。

・第2回講演会とワークショップ

テーマ:国際会議における質疑応答スキル

ーこれからデビューする方・技術をさらに磨きたい方のためにー

講師:日本大学歯学部 英語科主任教授 クライブ S. ラングハム先生

日時:平成22年11月18日(木) 17:30～19:00

・英文校正サービス

サービス内容:①英文校正(抄録、学会発表用原稿、カバーレター等)

②英語発表のモデル録音

校正担当者:一般教育機構(英語)・澁谷良穂教授、Steve Burke 講師、
Craig Woods 講師

実績:31件(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

・Evening English

平成20年度から開講し、3ヶ月コース、初中級と中上級の2クラスを開講している。

平成22年度には、8期を終了した。

講師:一般教育機構(英語)・Steve Burke 講師

受講者(第6期～8期)初中級コース:延べ33名/中上級コース:延べ27名

17. 大学病院の稼働実績に関する資料

1) 平成22年度経営管理指標の達成状況

		H22年度目標	H22年度実績	目標達成度	H21年度実績
平均在院日数	一般	18.0日以内	18.3日	+0.3日(未達成)	18.4日
	全体	19.0日以内	18.7日	-0.3日(達成)	19.0日
新入院患者数/日		35.0人以上	35.0人	0.0%(達成)	34.6人
入院患者数/日		700人以上	690.2人	-9.8人(未達成)	691.7人
病床稼働率		85%以上	83.9%	-1.1%(未達成)	84.0%
外来患者数/日		1,130人以上	1,137.9人	+7.9人(達成)	1,127.9人
新患患者数/日		28.8人以上	27.2人	-1.6%(未達成)	28.9人
患者紹介率		60%以上	55.1%	-4.9%(未達成)	54.4%
院外処方率		83%以上	85.3%	+2.3%(達成)	79.4%

2) 患者数関連指標の過去5年間の推移状況

年度	病床数(床)		患者数(人/1日平均)				平均在院日数(日)
	許可	稼働	外来患者数	新患患者数	在院患者数	新入院患者数	
平成18年度	938	890	1,137.7	31.6	698.9	33.0	21.2
平成19年度	932	884	1,148.6	32.1	681.8	33.8	20.1
平成20年度	892	840	1,122.7	28.3	658.3	33.6	19.6
平成21年度	835	823	1,127.9	28.9	657.1	34.6	19.0
平成22年度	835	823	1,137.9	27.2	655.3	35.0	18.7

3) 診療実績関連指標の過去5年間の推移状況

年度	診療実績				
	入院収入 (百万円)	外来収入 (百万円)	合計 (百万円)	入院単価 (円)	外来単価 (円)
平成18年度	12,896	3,825	16,721	48,270	11,514
平成19年度	12,908	4,085	16,993	49,276	12,180
平成20年度	12,830	4,185	17,015	50,801	12,808
平成21年度	13,043	4,479	17,522	51,662	13,646
平成22年度	13,658	4,628	18,286	54,219	13,880

4) 大型機器の利用実績

	H22年度実績	H21年度実績	対前年度増減	当初計画/年
放射線治療システム Varian	466人	472人	-6人	288人
PET-CTシステム	1,759人	1,629人	130人	1,440人
FDP搭載型X線TV装置	3,087件	2,860件	227件	1,928件
密封小線源治療装置	25件	28件	-3件	30件
X線CT装置(64列)	14,449件	15,622件	-1,173件	9,984件
X線CT装置(2管球式)	12,049件	-	12,049件	11,369件
IVR-CT/アンギオシステム	1,755件	1,440件	315件	545件
心血管撮影装置 AXIOM	2,533件	2,567件	-34件	900件
MRI装置 MAGNETOM3.0T	7,064件	6,920件	144件	3,485件
MRI装置 MAGNETOM1.5T	6,794件	4,358件	2,436件	3,700件
MRI装置 MAGNETOM1.5T	3,256件	3,959件	-703件	-

5) 手術実績

(単位:件)

診療科名	平成22年度	平成21年度	増 減
形成外科	671	632	+39
小児外科	296	293	+3
胸部心臓血管外科	318	277	+41
脳神経外科	222	224	-2
泌尿器科	226	241	-15
耳鼻咽喉科	312	286	+26
一般・消化器外科	634	646	-12
整形外科	891	921	-30
産科婦人科	231	207	+24
眼科	1,671	1,757	-86
呼吸器外科	99	95	+4
歯科口腔科	24	20	+4
麻酔科	31	42	-11
血液・リウマチ膠原病科	8	5	+3
救命救急科	1	1	0
皮膚科	3	9	-6
循環器内科	371	379	-8
消化器内科	2	4	-2
呼吸器内科	3	0	+3
神経科精神科	8	8	0
内視鏡科	24	14	+10
合 計	6,046	6,061	-15
うち全麻件数	3,605	3,519	+86
全麻率	59.6%	58.1%	+1.5ポイント

※循環器内科以外は、中央手術部における手術件数。循環器内科は、心臓血管内カテーテル治療の件数。

Ⅱ. 事業計画の進捗状況

1. 法人部門

1) 金沢医科大学グランドデザイン第1次5ヶ年計画(The First Five Year Plan)

新アナトミーセンター建設の準備工事として、学生食堂・体育館整備及び学生クラブハウスの一部解体工事を実施した後、グランドデザイン第1次5ヶ年計画の第一段階として、平成22年7月、新アナトミーセンターの建設に着手した。平成23年2月末に竣工した後、引っ越し作業を行い、3月26日に開館記念式を開催した。4月中旬から解剖実習が開始される。



新アナトミーセンター



入口ホール(1階)

人体解剖実習室(3階)

2) 特別高圧2回線化及び特別高圧変電所の設備更新(3ヶ年計画)

電力の安定供給を図り、平成20年度から3ヶ年計画で「特別高圧2回線化受電計画工事」を実施してきた。最終年度となる平成22年度は、従前(5,000KVA)のものよりランクアップした8,000KVAの受電用変圧器2台を更新した。

①第1期工事(平成20年度)

特別高圧22kV受電の引込設備の変更、22kV特高盤の更新、付帯設備改造及び移設・仮設工事を実施した。

②第2期工事(平成21年度)

高圧6.6kVの配電設備(高圧盤、コンデンサー盤)の更新、付帯設備改造及び移設・仮設工事を実施した。

③第3期工事(平成22年度)

受電用の変圧器2台の更新、変圧器用空調設備の更新・増強工事を主とし、付帯設備の改造及び移設・仮設工事を実施した。

3)各種設備の整備

改正省エネ法により、本学が第一種エネルギー管理指定業者に指定されて以来、ポンプ、照明設備のインバータ化を実施してきた。また、義務化されている年間1%のエネルギー削減を目指し、大型機器の更新を計画してきた。本学の教職員に対し、廊下照明のスイッチのプレートに節電を呼びかけるシールの貼付、各部署での省エネチェック表の提出など啓発活動を展開している。

平成22年度においては、老朽化したエレベーターは故障や事故の可能性も推測されることから、起動回数が著しく多い臨床研究棟の1号機、2号機を更新した。

4)給与システムの更新

従来の給与システムは導入から10年が経過し、OSやデータベースのサポート終了時期が近付いていること、サーバの修理可能時期が終了するなどの問題が出てきた。システムの安定性、データ処理のスピードアップなど今後の給与業務を安全かつ効率よく行うため、最新の給与システムを導入した。

5)創立四十周年の記念史発行

平成24年9月を発刊予定として、金沢医科大学四十年史(大学通史)及び金沢医科大学創立40周年記念誌(同窓会誌)の編纂作業を進めている。平成22年度は四十年史編集委員会にて編集(案)を作成、それに基づき、学内の関係部署、卒業生等に原稿の依頼を行った。

2. 大 学 部 門

1)入学志願者の確保

【医学部】

平成21年度の入学志願者減少傾向に歯止めをかけるため、平成22年度当初に入学志願者数2,400名確保を目標とし、様々な学生募集活動を展開した。主に受験生に直に本学をPRできる進学相談会への参加を呼びかけ、優秀な学生確保に努めた結果、昨年度の2,177名から303名増の2,480名の志願があった。

平成22年度第1学年後期に編入学となる編入学試験では、制度の認知度が向上していることもあり、平成20年度の制度改正以降、最多となる96名の出願があり、5名が入学した。

【看護学部】

入学志願者の低迷が続く看護学部においても、平成22年度当初に入学志願者数200名確保を目標に掲げ、様々な学生募集活動を展開した。特に高等学校訪問の徹底、富山・福井県での新規広報展開を重点に置き、地元志向の強い看護系志願者の確保に努めた結果、昨年度の162名から48名増の210名の志願があった。

第3学年に編入学となる編入学試験では、全国的に編入学に対する志望が減少している傾向も影響し、募集定員10名に対し4名が出願、1名が入学した。

2)医学教育の充実

卒前医学教育の充実を図り、良医の育成及び医師国家試験の合格率の向上を目指して、以下の事業を展開した。

①医師国家試験強化対策

医師国家試験合格率の向上及び合格者数の増加を目指し、新たに国試対策室及び国試対策委員会を設置し、国試対策事業を推進した。前年度に引き続き、臨床教育担当教員制度による個別指導も実施した。

また、第6学年の自習室として、病院本館5階を改修し、「ステューデント・ドクター医局」を設置し、教員とのコミュニケーションを深めながら勉学できる学習環境を整備した。

平成21年度からの継続事業である試験管理システムの構築については、当初の3ヶ年計画を2ヶ年計画に前倒したが、更なる運用上のニーズに対応するため、平成23年度においても追加機能整備計画として開発を継続する予定である。

ステューデント・ドクター医局利用状況（病院本館5階・第6学年自習室）

平成22年度	10月	11月	12月	1月	2月	合計	月平均
利用人数(延人数)	134人	200人	94人	172人	77人	677人	135人

※平成22年度は、橘会館自習室と併用



ステューデント・ドクター医局の様子

②クリニカル・シミュレーション・センターの充実

平成21年度に開設したクリニカル・シミュレーション・センター(CSC)では臨床実習前、臨床実習中の授業としての利用が着実に増加している。医学部学生、看護学部学生、臨床研修医、医師、看護師等を対象に更なる臨床教育の充実を目指し、平成22年度には新生児管理用シミュレータ(SimNewB)、無線式総合シミュレータ(SimMan3G)、心エコーシミュレータ(CardioHRS)の3点を整備した。また、授業の改善を図るため双方向対話型授業支援ツール(ソクラテックナノ)を導入した。



CSC 利用の様子



新生児管理用シミュレータ(SimNewB)

③医学部定員増に係る施設・設備の充実

- ・医学部の定員増に対応するため、各学年の基幹講義室である基礎研究棟のD31, D41, D51講義室を拡張し、整備した。
- ・臨床研究棟M20実習室に光学顕微鏡10台を追加整備し、130名規模の授業に対応可能とした。
- ・アナトミーセンター内の解剖実習台の増設に伴い、照明拡大鏡6台を追加整備した。

④教育環境の整備

- ・教育環境保持のため、情報処理教室のサーバ及びパソコン(47台)を更新・整備した。
- ・本部棟3階、4階のA32, A33, A41, A42講義室の操作卓AVシステムやブラインド等を整備し、低学年の教育環境の改善を図った。
- ・教養棟1階講義室の机・椅子135脚を更新・整備し、教員及び学生のニーズに対応した。
- ・基礎研究棟3階セミナー室2室を改装し、セミナーやスモールグループ学習に対応できる環境とした。
- ・教育実習用機器の年度整備事業として、各部門から要望のあった機器の中から、細隙灯顕微鏡用画像記録装置、神経解剖頭骨模型ほか3件(500万円)を整備し、教育環境の整備を図った。
- ・携帯メールを利用した学生への電子掲示システムを開発・整備し、情報伝達方法の改善を図るとともに、緊急時の一斉連絡手段も確保した。

3) 研究の活性化

①大学院の充実

大学院生の充足と研究活動の活性化を図るため、大学院1年次～4年次までの学生計87名分の授業料減免により、その経済的負担の軽減を行った。また、昼夜開講制導入による社会人入学生(医員、臨床研修医等)の確保、優秀な外国人留学生の受け入れなど、定員充足に向けて積極的に取り組み、定員充足率の増加を図った。

②科学研究費補助金等の外部資金獲得件数の拡大

従来からの共同研究・奨励研究制度に加え、若手研究者へ一層の助成をするため新助成制度（アシストKAKEN）を創設し、外部資金獲得のための環境整備を図った。科学研究費補助金の獲得件数は、過去最高の67件となったが、獲得金額は目標を若干下回った。

③産学官連携の推進

専任の産学連携コーディネータを採用し、産学共同による公的事業申請を積極的に推進し、学外機関（企業、大学、自治体等）との連携強化を図った。また、平成21年度に金沢工業大学と締結した「医工連携による教育研究協力協定」の一環として、医療分野と工学分野のシーズマッチングを継続的に推進した結果、約20件の共同研究が実施されている。

④研究成果の社会還元

子供たちを対象とする「ひらめき☆ときめきサイエンス ようこそ大学の研究室へ」や「スーパーサイエンスハイスクール（七尾高校SSH 金沢医科大学プログラム）」を実施し、子供たちの医学に対する関心を深めるべく積極的な活動を行った。

⑤研究用機器の充実

医学部、看護学部及び総合医学研究所など学内研究者の研究環境整備の向上を目的に、文部科学省の補助を受け、大型共同利用研究機器「次世代シーケンサ」及び「HSオールインワン蛍光顕微鏡」を整備した。「次世代シーケンサ」は平成22年10月から使用可能となり、平成22年度には48時間の使用実績があった。「HSオールインワン蛍光顕微鏡」は平成23年3月に設置され、今後の有効利用が期待される。



454
SEQUENCING
次世代シーケンサ



BSIOREVO
HSオールインワン蛍光顕微鏡

機 器 名	事業経費(円)	補助金額(円)	設置場所
シーケンサ(次世代)システム	19,939,500	9,556,000	基礎研究棟1階 遺伝子実験室
HSオールインワン蛍光顕微鏡	18,918,175	9,521,000	臨床研究棟7階 726

4)看護学部の充実

①教育指導体制の強化

看護学部は平成19年度の開設から4年目の完成年度を迎え、平成22年度は在学学生も4学年が揃った。各学年の学生への的確な指導体制の強化や看護師等国家試験対策

が求められ、各学年のクラス担任教員(指導教員)の増員及び学生の進路指導室の設置や、国試対策として4年生に対するグループ指導を実施した。その結果、看護師国家試験及び助産師国家試験は100%の合格、保健師国家試験は94.1%の合格であった。

②教育カリキュラム改訂の実施

基礎医学や疾患に関する授業時間の増加や各学年の時間配分等の改善、医学・看護専門領域の授業時間の更なる充実に向け、看護学部「カリキュラム改訂に関する委員会」にてカリキュラムの検討を行い、平成22年10月に改正案を文部科学省へ提出し、平成23年1月に承認された。平成23年4月から新カリキュラムによる授業を開始する。

③教育環境の施設整備

3ヶ年計画で実施中の旧看護専門学校の施設整備は平成22年度に2年目を迎え、講義室のマイク設備等教育器材の更新及び看護学部2号棟2階を改修し、国試対策等グループ学習のためのセミナー室10室を整備した。

④学部設置に係る完成年度の体制整備

平成22年度は看護学部の完成年度にあたり、認可申請時に年度計画で示した教員の採用、機器・備品及び図書などについて、整備を実施した。

5)北陸がんプロフェッショナル養成プログラム

北陸の5大学(本学、金沢大学、富山大学、福井大学、石川県立看護大学)の連携を通じた文部科学省採択の「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」では、共通カリキュラムによる融合型教育の相互補完、テレビ会議システムによる双方向型授業等を行っている。

平成22年度は、本学が作成を担当したコンテンツ「分子生物学入門」が、新たに選択科目として履修可能となり、履修科目の充実、受講生の増加を図った。また、教育セミナー1件(分子腫瘍学が担当し、KMU 研究推進セミナーと共同開催)、市民公開講座4件(腫瘍内科学(腫瘍治療学)、血液免疫制御学(血液免疫内科学)、生殖周産期医学(産科婦人科学)、発生発達医学(小児科学)が担当)、国際セミナー1件(呼吸機能治療学(呼吸器外科学)が担当)を開催した。

6)図書館の電子化(電子ジャーナルの維持)

平成18年度から導入している電子ジャーナルについて、平成22年度は約5,500タイトルがフルテキストで閲覧可能となっている。平成21年度から本学教職員であれば、自宅などどこからでもサービスの利用が可能になった。また、データベース等の利用説明会を実施し、利用促進に向けた企画を実施した。

7)能登北部地域医療研究所

公立穴水総合病院内に「能登北部地域医療研究所」を開設した。能登北部の地域医療充実のため、地域医療再生計画による寄附講座「総合医療学」(石川県)が本学に開講され、本研究所を拠点として「能登北部地域の医療環境の充実」「地域で活躍する総合医の育成」「グローバルな視点からの地域医療の研究」を3本柱とした活動を展開している。

本研究所の活動は、世界中の高齢化地域でのモデルとなるような医療システムの構築を目指す。

3. 病 院 部 門

1) 患者サービスの向上

① 接遇研修会の開催

患者サービス及び接遇対応の意識と技法の向上を目的とした接遇研修会は、毎年継続的に開催されている。平成22年度は3月に開催され、医師、看護師、コメディカル、事務職員ほか、合計436名の参加があった。

② 外来診察待ち時間の短縮

採血・検尿の待ち時間については平均10分以内、心電図は平均20分以内、X線は平均10分以内、会計窓口は平均5分以内を目標として、患者さんの待ち時間の短縮に努めた。

③ 患者満足度調査の継続的实施

外来患者、入院患者を対象に満足度調査を行い、その結果を診療科や病棟などへフィードバックし、業務の改善に資するよう努めている。また、平成21年度からは調査結果と改善結果について院内に掲示し、ホームページ上にも公開しており、平成22年度も継続して行った。

④ フロアサービスの推進

看護師長やポーターが中心となり、病院新館正面出入り口にて、患者さんの受診相談や院内の案内、誘導、サポートなどを積極的に行い、患者サービスの向上に努めた。また、紹介患者専用カウンターでは、優先診療や当該診療科への案内も行っている。

2) 医療安全の確保

① インシデント・医療事故報告システム

平成22年度は3,437件(前年度比20件減)のインシデント報告、29件(前年度比1件減)の医療事故報告があった。その中の代表的な事例について医療安全対策委員会で報告され、これに基づき、医療安全対策小委員会において、インシデントについて21事例で改善策及び事故防止策の周知が図られた。

② 院内暴力対策

平成22年度から元警察職員を院内暴力担当職員(保安担当責任者)として嘱託採用し、「院内暴力対応指針」を作成・配布するとともに平成23年2月21日には、医療現場のチーフリーダーやスタッフを対象とした「院内暴力発生時の対応訓練」及び「護身術講習会」を、石川県警職員の協力を得て開催した。

③ 患者誤認防止システム

注射処方の誤認防止システムは、平成21年4月から一部の病棟で試験稼働が開始され、平成22年1月からは全病棟で稼働している。また、輸血に関しては平成23年度から稼働する計画である。

④ 感染対策の強化、充実

臨床感染症学講座の飯沼由嗣教授が着任し(感染制御部門副部長兼任)、院内感染対策の責任者として業務の再構成を行った。まず、院内感染対策小委員会を発展的に解消し、医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、事務職員の13名からなる感染

対策チーム(ICT)を新たに立ち上げた。4名の専任委員(医師、看護師、薬剤師、検査技師各1名)を中心として、日常的な院内感染対策業務を行い、定例のICT会議(月2回開催)にて、院内感染に関する様々な協議を行い実行に移した。

また、定例の院内ラウンドを月2回実施し、手洗いや院内感染対策の実施状況の確認を行った。月1回定例の院内感染対策委員会においては、薬剤耐性菌の検出状況、抗菌薬の適正使用、感染症の発生状況、その他院内感染関連の報告事項等に関してICTが資料を作成し、報告を行った。

3)医療の高度化と質の向上

①医療安全管理体制の強化推進

診療管理基準、医療安全対策マニュアル、感染症対策マニュアル、災害対策マニュアルを院内各部署に常備し、公的機関の指導や現場の診療方針、ガイドラインの変更等にあわせて、随時内容の一部を改訂した。

また、医療相談や暴力行為(モンスター・ペイシエント)に対応するため、経験豊富な専門知識を有した人材を登用し、保安体制の強化を図った。

②地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

がん診療連携拠点病院の要件は、集学的医療のための人材育成研修、院内がん登録、がん相談支援センター設置によるがん相談、緩和ケアチームによる診療支援活動であり、前年度に引き続き、拠点病院としての要件の整備を行い、機能強化に向けて積極的な取り組みを行った。

③先進医療、集中治療室等の施設基準への取り組み

- ・先進医療の導入については、現在、全国で承認されている先進医療は90種類(平成23年3月1日時点)であるが、本学病院では平成22年度に新たに「内視鏡的大腸粘膜下層剥離術(平成22年8月1日承認)」及び「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(平成22年9月1日承認)」の届出が受理され、本学病院が保持する先進医療は、既届出済みの「経皮的レーザー椎間板減圧術(平成8年7月1日承認)」、「インプラント義歯(平成15年6月25日承認)」を含めて4件となった。
- ・新生児特定集中管理料(NICU)の申請については、当該施設設備工事と看護師配置を行い、平成23年度の早い時期に施設基準を取得する計画である。

④クリニカルパスの拡充

クリニカルパスの保有件数は、平成22年度は160件となり、ほぼ全診療科で保有、実施されるようになった。平成22年度には院内パス大会を1回開催したが、医療の効率化と患者負担の軽減、在院日数短縮などエビデンスに基づいた医療の標準化が浸透しつつある。

また、患者紹介・逆紹介の病診・病病連携を病院運営の最重要課題と位置づけており、白内障疾患の地域連携パスをはじめ、平成22年度の診療報酬改定で新設された「がん治療連携計画策定料」の算定要件である5大がん(胃がん・大腸がん・乳がん・肝がん・肺がん)の地域連携パスを整備し、がん診療における病診・病病連携を開始した。

4) 地域連携・地域貢献

①紹介・逆紹介患者数の状況

平成22年度の新患・初診の紹介患者数は8,572名(前年度8,767名)であり、再診紹介患者を含めると11,830名(前年度11,748名)であった。前年度より、新患・初診は195名の減少、再診は277名の増加で、紹介患者全体では82名の増加となった。

また平成22年度の逆紹介患者数は、8,588名(前年度8,198名)で前年度比較では390名の増加となった。

②地域保健医療活動

- ・石川県予防医学協会や成人病予防センターが実施する地域住民健診へ継続的に医師を派遣し、その他、学校健診へも専門医を派遣した。
- ・21世紀集学的医療センターにおいて、患者向けに生活習慣病の予防対策を目的とした運動教室を毎月2回開催し、毎回30名前後の地域住民が参加した。また、一般者向けの「健康づくりセミナー」として、内灘町、金沢市、病院内などでメタボリック症候群や栄養と内臓脂肪、タバコと健康をテーマに4回開催し、各々80名が参加した。
- ・医療従事者向けに遺伝子医療、緩和医療、性差医療、がん治療における心の問題などをテーマに、病院内で集学的医療セミナーを4回開催し、毎回約100名の参加があった。

③遠隔医療システム・地域医療連携システムの継続的運用

平成21年度から公立穴水総合病院・地域診療所と連携し、本学病院からのテレコンサル(透析管理支援、がん相談・化学療法支援)による協力体制が構築され稼働している。

また、遠隔診療支援が開催されたことに伴い、診療活動の質を向上させるために、両院の看護部が交流研修を開始し、高度がん医療及び透析医療に関する勉強会を定期的に行っている。

5) 教育研修(初期臨床研修医)

①臨床研修プログラムの策定と研修医募集活動

平成23年度臨床研修プログラムの策定と、現在研修中の平成21年度研修プログラム(研修医18名)及び平成22年度研修プログラム(研修医16名)の円滑な実施に努めた。

また、平成23年度からの臨床研修プログラムの一般コース研修プログラム(定員44名)、産科婦人科コース(定員2名)、小児科コース(定員2名)の実施を申請し、厚生労働省に受理された。そのほか、研修医募集のための院内説明会の開催や、院外におけるセミナーや説明会にも積極的に参加し、本学病院のブースを設置するなど広く募集活動を行った。

②臨床研修指導医の養成

厚生労働省の臨床研修審査専門官を招聘して、指導医養成のためのワークショップを開催し、25名(うち協力病院7名)の指導医を養成した。



プロフェッショナル・キャリアパス

6) 人材確保と就業環境の改善(看護職員)

① 看護師募集活動

看護体制確立のため、以下のような人材確保活動を行った。

- ・看護師募集活動として、北陸3県を中心に看護学校訪問(6月、11月)を行ったほか、金沢、大阪における合同説明会への参加、就職情報サイトへの登録を行い、看護師確保に努めた。
- ・本学の看護学部学生を対象に就職説明会(5月)を開催したほか、同学部学生並びに教員と看護部、看護師長との懇談会(8月)を開催し、相互の交流を推進した。
- ・応募者の都合に合わせた院内説明会を随時開催した。
- ・看護師募集パンフレット、看護部ホームページなどを刷新して看護師のイメージ向上に取り組んだ。

② 就業環境改善の取り組み

看護師離職者防止対策として、平成22年度も引き続き魅力ある職場づくりを推進し、教育体制の充実、資格取得への経済的支援、就業支援など看護業務の改善に取り組み、看護師業務の効率化を図った。

・キャリア形成支援

専門看護師・認定看護師の資格取得のための費用の一部を予算化し、平成22年度は同予算を利用して2名が認定看護師の研修を受講した。本学病院には現在、専門看護師2名、認定看護師10名、計12名が在職している。

・看護職員紹介報奨制度による人材確保

看護職員の採用促進策として、本学病院が求める人材を紹介した職員に対し報奨金を支給する制度により、平成22年度は3件の実績があった。

・看護職員を対象とする短時間勤務制度の実施(平成22年6月30日から)

家庭の事情等により、これまでの勤務体制では就業の継続が困難になった看護師に対し、勤務時間を短縮する制度を本格的にスタートさせた。雇用形態を多様化することにより、有能な人材を確保するとともに、家庭にいる潜在看護師等の再就職につながる事が期待できる。現在12名の看護師が、この制度を利用している。

7) 医療機器等の整備

① 大型医療機器の整備

大型放射線機器の整備は、乳房撮影装置(新機種はフルデジタル乳房撮影装置)1台を更新した。

その他の大型医療機器の整備については、ハートセンターに心臓電気生理学的検査3次元画像システム1台を新設した。

②その他の医療機器整備

医療機器の整備は、更新機器40件、追加機器16件、新規機器9件の整備を行った。

③情報システムの整備

情報システムの整備として、オンライン請求の義務化に伴う歯科レセプト電算処理対応事業の実施、電子カルテ長期保存サーバの更新を行ったほか、中央放射線部情報システム(更新)、栄養システム(更新)、看護支援システム(機能拡充)の整備を行った。

④機器設備予算の病院長ヒアリングによる節減対策

大型の高額機器の導入は、特定機能病院として高度な医療レベルを保持するために必要不可欠であるが、経済的効果をより重視するため機器の選定にあたっては、病院長と病院企画室が申請部署及び責任者と綿密なヒアリングを行った。また、大型医療機器に係る保守料については、その契約内容及び保守料の見直しを行い経費節減に努めた。

8) 施設設備整備

①病院本館の再整備計画

グランドデザイン計画検討委員会の基本計画に則り、グランドデザイン計画対象部署とのヒアリング等を実施し、第1次5ヶ年計画完成時の病院整備の素案作成を推進した。

②新生児集中治療センターの拡充

石川県地域医療再生計画の一環として、同計画の交付金を受け、新生児用人工呼吸器や保育器等の医療機器整備並びに施設改修工事を行い、センター機能を拡充した。

9) 収支改善

①看護師配置7対1及び特定集中治療室管理加算等の通年確保

- ・特定機能病院基本料(看護師配置7対1)は、入院患者数の大幅な変動もなく、通年で確保することができた。
- ・集中治療室管理加算(ハートセンター)は8床で運用しており、更に、広範囲熱傷患者の受け入れにも対応できるよう整備等を実施し、広範囲熱傷特定集中治療管理料の届出を行い平成22年10月1日に受理された。
- ・平成22年度の診療報酬改定により、特定機能病院においても算定が可能となった特定入院料の小児入院医療管理料3の届出を行い、平成22年8月から算定を開始した。(平成23年3月から小児入院医療管理料2に届出変更)

②大型機器による患者誘致

大型機器の利用状況は、別表(17ページ参照)のとおりであり、対前年度比較では機器により増減が見られるが、密封小線源治療装置以外のいずれも当初計画の取り扱い件数を大きく上回り、総じてフル稼働状態である。今後さらに最先端の大型機器を積極的に広報し、対象患者の誘致を図っていかねばならないが、特にPET-CTや新規導入のCTについては人間ドックの検査項目を充実させて、新規ドック利用者の獲得に繋げていく。

また、3台のMRI装置と新規導入した1台を含めた3台のCT等、大型機器の効率的な運用を図り、診療実績の増加に繋げていく。なお、平成22年度にはフルデジタル乳房撮影装置が更新され、これにより乳がん診断の充実及び診療実績の増加を図った。

③21世紀集学的医療センターの充実(健康管理センター、生活習慣病専門外来など)

・健康管理センター

平成22年度は、病院別館7・8階を人間ドックの拠点として、新健診システムの稼働、宿泊ドック用個室の一部リニューアル、職員健診の実施、医療スタッフの確保などソフト、ハード両面での充実を図った。

・生活習慣病専門外来など

特定健診、特定保健指導制度に伴い、生活習慣病外来、禁煙外来、肥満外来、女性外来(平成21年度に女性総合医療センターを設置)など特色ある専門外来において更なる質的充実のため、関連診療科との連携強化を図った。

④DPC分析を活用し、クリニカルパスの改良による医療の標準化、効率化

DPC分析は、私立医大協会ベンチマークによる他院とのデータ比較が開始され、既に実用段階に入ったため、他大学病院との分類疾患ごとの相対的経費比較が可能となり、経営分析上の参考資料として有効に活用できる。平成23年度は、医事部門にてDPC疾患別コストデータの解析を行う計画である。

⑤ジェネリック薬品の選択的採用と診療材料の標準化

ジェネリック薬品の使用については、薬事委員会を中心としてその選択的採用の検討を進め、平成22年4月から一部採用した。また、診療材料については、医療安全、感染対策、コスト削減の観点から業務改善委員会で規格統一による標準化を進めた。

⑥収支改善に向けた病院長ヒアリングの実施

病院長と各診療科長、医局長とのヒアリングを昨年度に引き続き実施した。ヒアリングでは、各診療科から今年度の状況報告、平成23年度の数値目標の提示、診療実績の向上に向けた協議等を行った。

10)組織運営

病院機能の自己点検、評価の取り組み

病院機能評価の受審に際し達成された改善レベルを維持しながら、未達成の事項については引き続き改善に努めた。このため、病院として機能評価の視点から、不断の点検・評価を継続する体制を維持し、各部門ならびに各委員会において院内の各種ルールや業務運用の見直し、関連資料の整理等を推進し、更なる業務レベルの向上と効率化などの改善を進めた。また、平成23年度の認定期間満了に伴う認定更新に向け、各種マニュアルや根拠資料の整備状況等を重点的に評価する等、受審のための準備を進めた。

11)平成22年度経営管理指標の達成状況

平成22年度数値目標(17ページ参照)に対しては、平均在院日数の短縮、新入院患者数の増加、外来患者数の増加、院外処方率の向上については達成できたが、その他の項目については未達成となった。前年度実績との比較では、新入院患者数の増加以上に、平均在院日数が短縮されたため、延入院患者数は減少となった。

4. 金沢医科大学氷見市民病院

1) 診療実績の状況

① 医療収入

平成22年度の医療収入は41億7,000万円となり、前年度より2億6,700万円(+6.8%)の増加となった。また、当初目標に対しては400万円増となり、病院運営開始以降はじめて目標を達成した。入院の医療収入は前年度より2億5,200万円(+11.2%)の増加となった。外来の医療収入は、前年度より1,400万円(+0.8%)の増加となった。収入増加の要因は、常勤医師3名の増員と診療報酬の引き上げによる。

② 患者数

入院の1日平均患者数は162名となり、前年度より9名増加した。一方、外来の1日平均患者数は498名となり、前年度より9名減少した。新入院患者数は、2,943名となり、前年度より71名減少した。

③ 診療単価

入院診療単価は42,374円となり、前年度より2,064円(+5.1%)増加した。外来診療単価は11,367円となり、前年度より176円(+1.6%)増加した。

入院診療単価の増加要因は、診療報酬の引き上げと全身麻酔の手術件数の増加による。外来診療単価は、DPCを踏まえた入院前検査の外来実施などが進展しなかったことから微増にとどまった。

④ 平均在院日数

平均在院日数は19.0日となり、前年度より1.4日長くなった。2、3月の積雪による高齢者の転倒骨折が多かったことが、在院日数長期化の一つの要因となった。

⑤ 手術実績

年間手術件数は912件となり、前年度より288件(-24.0%)減少した*。減少の理由は、医師の交替による診療体制の変動によるもので、眼科、整形外科での影響が大きい。一方、全身麻酔の件数は474件となり、前年度より51件(+12.1%)増加した。

手術実績 (単位:件)

診療科名		平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度
外科	一般・消化器外科	260	272	257	351
	胸部心臓血管外科	79	86	90	
麻酔科		0	0	0	14
形成外科		13	26	85	15
整形外科		248	288	285	293
脳神経外科		43	38	18	24
泌尿器科		2	3	0	2
産婦人科		27	13	0	5
眼科		138	419	395	292

耳鼻いんこう科	5	6	0	0
歯科口腔外科	18	11	24	14
皮膚科	39	29	0	0
循環器内科	39	9	0	0
総合診療科	1	0	0	0
合計	912	1,200	1,154	1,010
手術件数／月	76.0	100	96.2	84.2
うち全麻件数	474	423	439	442
全麻率	52.0%	35.3%	38.0%	43.8%

※循環器内科以外は、手術部における手術件数。循環器内科は、心臓血管内カテーテル治療の件数を含む。

2) 診療体制の整備

①医師の確保

常勤医師は前年度より3名増員し、目標を1名上回る36名となった。これにより循環器内科、胸部心臓血管外科、総合診療科、皮膚科の診療体制が拡充した。臨床研修医は前年度の2年目研修医3名のうち2名が後期研修医として残り、新たに1年目研修医が3名採用となった。

②看護師の確保

看護師は前年度より12名増員し、目標を4名上回る184名体制となった(パート等21名を含む)。また、平成23年度の人材確保に向け、学校訪問やテレビコマーシャル製作、就職説明会などの対策を積極的に行った。

③リハビリテーション部門の体制強化

リハビリテーション部門の重点化のため、理学療法士4名、作業療法士1名を増員した。これにより、患者に対する実施総単位数は2割以上増加し、年間実績額は前年度より6,000万円(+27.3%)増加の2億8,000万円となった。

④時間外救急体制の充実

時間外救急患者の延数は5,821名となり、前年度より110名(-1.9%)減少した。このうち、救急車搬送の患者数は812名となり、前年度より108名(+15.3%)増加し、入院患者数も688名となり前年度より40名(+6.2%)増加した。全体的な傾向としては、軽症患者の時間外受診は減少し、救急車や入院を要する重症患者の受け入れが進展した。

救急患者の受け入れ状況

年度	救急患者延数	1日当り	うち救急車搬送患者	1日当り	うち入院患者数	入院率
平成20年度	6,005人	16.5人	635人	1.7人	574人	9.6%
平成21年度	5,931人	16.2人	704人	1.9人	648人	10.9%
平成22年度	5,821人	15.9人	812人	2.2人	688人	11.8%

⑤脳ドックの受け入れ体制の整備

平成22年6月から脳ドックを実施し、8件の実績となった。現病院でのドック受け入れ体制については、ハード・ソフト面において拡充ができないため、一般ドックの枠内での実施にとどまった。

⑥インシデント・アクシデント管理システムの導入

当管理システムは平成22年9月に導入、12月から本格稼働した。各部署で発生するインシデントレポートの作成が手書きからデータ入力に移行したことで、作業能率が向上し的確にレポート報告が行われるようになった。また、データ化によるメリットも多く、安全管理の推進に繋がっている。

⑦病診連携の推進

紹介件数は1,416件となり、前年度より167件減少した。紹介率は20%前後で低迷している。また、平成22年11月6日に開催された「地域医療懇談会」は、平成22年度で3回目となるが、参加医療機関や参加人数が減少傾向となっており、次年度の課題となっている。

⑧原価管理システムの導入

DPC対象病院として部門別の収支管理が必要であることから、DPC用データファイルを有効に利用する部門別原価システムの導入を検討した。メディカルデータビジョン(MDB)システムを検討したが、高額であったため大学ですでに導入されているニッセイ情報の評価・検証を行っている。

⑨資格取得支援事業（認定・専門看護師等）

平成22年度から実施している認定・専門看護師取得に係る入学金、授業料等の一部支援制度を利用し、平成22年7月に透析看護認定看護師1名が誕生した。

⑩へき地巡回診療

「へき地医療拠点病院」として、氷見市内12地区(うち補助対象地区9ヶ所)でへき地巡回診療を行っている。今年度の患者延べ数は1,245人で前年度より159人(-11.3%)減少した。高齢化が進み病状の悪化による入院や施設入所のため、へき地での患者数は年々減少している。

3)医療経費の削減

医療材料費(臨床薬品、検査用試薬、血液、感光材料、医療材料の購入額)は、前年度より800万円(+0.6%)増加した。平成22年度から心臓手術が本格実施されたため、使用薬品(血液含む)と心臓検査材料等が4,000万円の大幅増となったものの、薬品と医療材料の契約価格を引き下げたことにより、微増にとどまった。

医療間接費医療保守業務及び外部委託(滅菌業務、患者給食、清掃業務、設備管理業務等)の委託費は、事務補助員の新規業務委託費500万円の増加はあったものの、他の業務見直しにより、前年度並みの金額で推移した。

4)新病院建設

平成22年4月22日に「安全祈願祭」が執り行われた。例年のない大雪のため工事は遅れ気味となったが、毎週1回開かれる定例会議では工程確認や建築・電気・機械設備の各分科会にて施工打ち合わせが行われ、工事工程の組み直しなどによりその遅れを取り戻した。それにより平成23年3月末における工事の出来高は約86%となり、目標を達成した。

また新病院の稼働に向け、「新病院運用検討委員会」および実行グループとして17の作業部会が組織され、医師・看護師・コメディカル・事務など全ての職種が参加し取り組んだ。

5) 医療機器整備

① 医療機器の購入

大学購入分は、11件で756万円となった。また、氷見市民病院の「管理運営に関する基本協定第31条の指定管理者負担金に該当する氷見市購入分の医療機器は、心臓手術関連機器整備の1億1,000万円を含み28件で2億4,200万円となった。

② 医療機器の稼働実績

平成20年度～平成22年度に整備した医療機器の稼働状況は、次のとおり。

医療機器の稼働実績

<平成20年度整備機器>

部署	品名	規格	数量	稼働実績(件)
内分泌内科	体成分分析装置	InbodyS20	1	13
眼科	3次元眼底像撮影装置	3DOCT-100	1	544
中央臨床検査部	自動グリコヘモグロビン分析装置	HLC-723G8	1	2,870

<平成21年度整備機器>

部署	品名	規格	数量	稼働実績(件)
一般・消化器外科	超音波診断装置	EUB-750	1	173
皮膚科	赤外線照射装置	UV801KL-TL01	1	383
皮膚科	近赤外線治療装置	HA-2200TP1	1	363
眼科	眼内レーザー光凝固装置	GYC-1000	1	29

<平成22年度整備機器>

部署	品名	規格	数量	稼働実績(件)
手術部 (胸部心臓血管外科)	自己血収装置	CATSプラス	1	32
手術部 (胸部心臓血管外科)	人工心肺装置	HL-30	1	26
手術部 (胸部心臓血管外科)	補助循環装置	ヨストラシステム	1	5
中央臨床検査部	全自動輸血検査システム	オートビュー-Innova	1	3,092
中央臨床検査部	血液ガス分析装	ABL835GL	1	3,160

6) 経営指針

平成22年度の経営指標は次のとおり。

平成22年度経営管理指標の達成状況

指標	平成22年度 (実績)	平成22年度 (目標)	目標差	平成21年度
許可病床数	368 床	368 床	—	368 床
稼動病床数	216 床	216 床	—	204 床
平均在院日数	19.0 日	17.5 日	+1.5 日	17.6 日
新入院患者数	8.1 人/日	8.6 人/日	-0.5 人/日	8.3 人/日
入院患者数	162 人/日	160 人/日	+2 人/日	153 人/日
外来患者数	498 人/日	510 人/日	-12 人/日	507 人/日
入院診療単価	42,374 円	41,500 円	+874 円	40,310 円
外来診療単価	11,367 円	11,700 円	-333 円	11,191 円
実績額	4,170 百万円	4,166 百万円	+4 百万円	3,903 百万円

7) 職員数

職員数の推移は次のとおり。

(単位:人)

職種名	平成23年3月31日現在			平成22年4月1日現在			平成22年3月31日現在		
	常勤	非常勤 パート	計	常勤	非常勤 パート	計	常勤	非常勤 パート	計
医師	32	70	102	32	78	110	29	78	107
歯科医師	1		1	1		1	1		1
臨床研修医	3		3	3		3	3		3
薬剤師	9		9	9		9	9		9
助産師	2		2	2		2	2		2
看護師	132	19	151	128	13	141	127	13	140
准看護師	29	2	31	28	2	30	28	2	30
補助員等	21	5	26	20	6	26	21	4	25
栄養士	0		0	0		0	0		0
管理栄養士	3		3	3		3	3		3
放射線技師	11		11	10	1	11	11	1	12
理学療法士(PT)	14		14	12		12	10		10
作業療法士(OT)	5		5	4		4	4		4
臨床工学技士	3		3	3		3	3		3
言語聴覚士	2		2	2		2	2		2
視能訓練士	1		1	1		1	1		1
歯科衛生士	3		3	2		2	3		3
臨床検査技師	14		14	14		14	14		14
その他の技術員	3		3	2		2	0		0
医療ソーシャルワーカー	2		2	2		2	2		2
技能員等	3	2	5	3	1	4	5		5
事務職	33	4	37	31	4	35	31	4	35
計	326	102	428	312	105	417	309	102	411

※休暇中(病休、育休等)の数を含む。

Ⅲ. 財務の概要

1. 平成22年度決算の概要

平成22年度は、グランドデザイン事業(大学施設再整備計画)の最初の事業として新アナトミーセンターを建設した。また、受験生の確保や医師国家試験の合格者数及び合格率の向上につながる教育、研究事業を実施し、病院部門では、いわゆる平成22年度問題(看護師不足)の対策や就業環境改善を行った。

収入面では、医療収入で過去最高となる182億円を確保し、学納金などで増収になったことにより、帰属収入合計は前年度比6億6千6百万円増の256億8千1百万円となった。

また、支出面では、人件費が増加したことにより、消費支出合計(有価証券評価差額を除く)は前年度を2億1千9百万円上回る253億9千8百万円となった。この結果、帰属収入から消費支出(同前)を差引いた収支差額は2億8千3百万円の収入超過という結果になった。

1)消費収支計算書(表1参照)

《帰属収入の部》

学生生徒等納付金

平成21年度決算に対し(以下、前年比という。)1億6千1百万円増の49億6千4百万円となった。学生数は、医学部生672名(前年比13名増)、大学院生72名(同3名増)、看護学部生256名(同64名増)の合計920名(同80名増)。

手数料

平成23年度医学部入試に係る入学志願者2,576名及び看護学部の入学志願者214名を含む入学検定料ほかで、1億5千9百万円となった。

寄付金

寄付金総額は、前年比7千2百万円増の6億3千1百万円となった。

補助金

補助金総額は、前年比3億1百万円減の11億4千8百万円となった。

うち、私立大学等経常費補助金は9億4千6百万円、文部科学省研究装置設備補助金は4千1百万円となった。また、その他の補助金で増加しているのは、NICU整備事業に係る補助金約3千8百万円があったため。

資産運用収入

資産運用収入は、受取利息・配当金が5千3百万円、施設設備利用料が9千7百万円の合計1億5千万円となった。そのうち受取利息・配当金は、円高の影響で外国債券の利金が6千8百万円減少した。

医療収入

医療収入総額は、前年比7億7千1百万円増の182億7千1百万円となった。

入院収入は、病床利用率が83.9%と前年比0.1ポイント減少したが、診療単価が前年比4.9%の増加となったことなどにより、前年比6億3千2百万円増の136億5千2百万円となった。

一方、外来収入は、外来延患者数が1.6%増加し、診療単価が前年比1.7%の増加となったことなどにより、前年比1億3千9百万円増の46億1千9百万円となった。

なお、医療収入の帰属収入に占める割合は71.1%(前年度70.0%)となった。

以上により、平成22年度の帰属収入の部合計は、前年比6億6千6百万円増の256億8千1百万円となった。

《消費支出の部》

人件費

人件費総額は、前年比2億1千7百万円増となる121億5千万円となった。うち、教員人件費は、前年比2千6百万円増の36億8千8百万円、職員人件費は平成22年度問題対応のための看護師確保等により、前年比1億3千1百万円増の76億3千1百万円、役員報酬はほぼ前年同額の8千8百万円、退職給与引当金繰入額及び退職金は、前年比6千2百万円増の7億4千3百万円となった。退職金が増えたのは、定年間近の任意退職者や任期満了による役員の退職金があったため。

なお、人件費の帰属収入に占める割合は47.3%(前年度47.7%)となった。

教育研究経費

前年比5百万円増の16億円となり、引き続き教育研究の充実を図った。

ここには、新アナトミーセンターの消耗備品費やクラブハウスの改修撤去費、橘会館の解体費用及び病院本館5階の学生自習室移転経費などが含まれている。

医療経費

前年比5千4百万円減の84億6千2百万円となった。医療収入の大幅増収に対して、薬品費が4千万円の減、医療材料費が3千6百万円の減となった。これは、薬価が5.8%下落したことに加え、院外処方率のアップやジェネリック薬の採用など薬品材料費のコストダウンに努力したことが要因となっている。

なお、医療経費の医療収入に占める割合は46.3%(前年度48.7%)、また、帰属収入に占める割合は33.0%(同34.0%)となった。

減価償却額及び資産処分差額等

減価償却額及び資産処分差額の合計額は、前年比6千3百万円増の27億6百万円となった。

以上により、平成22年度の消費支出の部合計(有価証券評価差額を除く)は、前年比2億1千9百万円増の253億9千8百万円となった。

この結果、帰属収入の部合計256億8千1百万円から、消費支出の部の合計(同前)253億9千8百万円を差引いた収支差額は、前年比4億4千7百万円増となる2億8千3百万円の収入超過となった。

なお、平成20年9月のリーマンショック以来、世界経済、金融機関等の混乱が続いているが、本年度はさらに円高が進み、有価証券評価差額は13億9千3百万円となった。この有価証券評価差額を含めた消費収支差額は、11億1千万円の支出超過となる。

2) 資金収支計算書(表2参照)

《資金収入の部》

借入金等収入

期中の運転資金として銀行から10億円を借入れた。

また、教育振興資金(学校債)を募集し、4億4百万円の資金調達を行った。

前受金収入

平成23年度学生生徒納付金等の前受金は、前年比3億8千7百万円減の31億4百万円となった。なお、医学部学納金の前後期分割納入は4年目になる。

その他の収入

前年比4億7千6百万円減の35億5千7百万円となった。

《資金支出の部》

借入金等返済支出

期中に借入れた短期借入金10億円を返済した。

また、学校債の定期償還及び繰上償還等で、4億8千2百万円の償還を実施した。

施設関係支出

新アナトミーセンター建設工事に4億3千2百万円、特別高圧2回線化受電工事に2億1百万円、クラブハウス改修工事に4千3百万円ほかで、合計8億5千3百万円を支出した。

設備関係支出

乳房用X線撮影装置7千7百万円、3次元画像システム4千9百万円、X線CT撮影装置4千8百万円、循環器超音波診断装置3千9百万円(うち、補助金交付額1千9百万円)、薬剤管理システム3千3百万円ほかで、合計7億3千4百万円を支出した。

資産運用支出

グランドデザイン事業に対する財源を確保するため施設拡充引当特定資産に7億円を計画どおり積立てた。

また、金沢医科大学氷見市民病院への元入金として4千1百万円を繰り入れた。

以上の資金収支計算の結果、平成22年度の次年度繰越支払資金(手持運転資金)は前年比9千5百万円増となる42億2千3百万円となった。

3) 貸借対照表(表3参照)

《資産の部》

資産総額は、前年比13億4千5百万円減の538億1千3百万円となった。

これは、建物ほかの減価償却、減価償却引当特定資産の評価換えによるもの。

固定資産

固定資産は、前年比15億8千9百万円減の460億5千万円となった。

建物及び構築物が8億9千8百万円減少しているのは、新アトミーセンター建設工事などの取得高が除却額及び減価償却額を下回ったため。

教育研究用機器備品が2億2千4百万円減少しているのは、研究用機器や医療用機器の取得高が除却額及び減価償却額を下回ったため。

収益事業元入金については、金沢医科大学氷見市民病院の運転資金として新たに4千1百万円を繰り入れた。

長期貸付金は医学部生、看護学部生及び臨床研修医への奨学貸付金で、4億6千4百万円となった。

退職給与引当特定資産は、前年同額の61億3千8百万円で、これは、退職給与引当金期末残高の81.1%に相当する。

減価償却引当特定資産は、仕組債の評価換えにより前年比13億9千3百万円減の30億9千6百万円となった。

施設拡充引当特定資産は、7億円をグランドデザイン事業に積立てた。

流動資産

流動資産は、前年比2億4千4百万円増の77億6千3百万円となった。

うち、現金預金は前年比9千5百万円増の42億2千3百万円となった。

また、未収入金が1億7千6百万円増加しているのは、医療未収入金が増加したことによる。

《負債の部》

負債総額は、前年比2億3千5百万円減の175億6千8百万円となった。

固定負債

退職給与引当金は、取崩しと繰入れを行った結果、前年比4千7百万円減の75億6千6百万円となった。

流動負債

前受金が減少したのは、平成19年度医学部入学生から学納金が前後期分割納入となったことによる。

《正味財産の部》

正味財産は、前年比11億1千万円減の362億4千5百万円となった。この減少額は、消費収支計算書(表1)の差引消費収支差額に一致する。

資産総額に対する正味財産の割合は67.4%となり、前年度より0.3ポイント減少した。

平成22年度決算の概要

(表1) 消費収支計算書

(▼は比較上の減少を表す) (単位:百万円)						
帰属収入の部	① 22年度 決算	② 21年度 決算	差 異 ①-②	③ 22年度 予算	差 異 ①-③	22年度決算 帰属収入比
学生生徒等納付金	4,964	4,803	161	4,955	9	19.3%
手数料	159	139	20	147	12	
寄付金	631	559	72	540	91	2.5%
特別寄付金(寄附講座等)	51	12	39	30	21	
一般寄付金入学時	197	190	7	200	▼3	
一般寄付金その他	372	351	21	300	72	
現物寄付金	11	6	5	10	1	
補助金	1,148	1,449	▼301	1,148	0	4.5%
経常費補助金	946	1,103	▼157	946	0	
文科省設備補助金	41	201	▼160	41	0	
臨床研修費補助金	52	54	▼2	52	0	
その他の補助金	109	91	18	109	0	
資産運用収入	150	219	▼69	160	▼10	0.6%
受取利息配当金	53	121	▼68	40	13	
施設設備利用料	97	98	▼1	120	▼23	
事業収入	258	232	26	265	▼7	
医療収入	18,271	17,500	771	18,015	256	71.1%
入院収入	13,652	13,020	632	13,475	177	(21決算比
外来収入	4,619	4,480	139	4,540	79	4.4%増)
雑収入	100	114	▼14	60	40	
帰属収入の部合計	25,681	25,015	666	25,290	391	100.0%
消費支出の部	① 22年度 決算	② 21年度 決算	差 異 ①-②	③ 22年度 予算	差 異 ①-③	22年度決算 帰属収入比
人件費	12,150	11,933	217	11,960	190	47.3%
教員人件費	3,688	3,662	26	3,720	▼32	(21年度決
職員人件費	7,631	7,500	131	7,600	31	算 47.7%)
役員報酬	88	90	▼2	90	▼2	
退職給与引当金繰入額 及び退職金	743	681	62	550	193	
教育研究経費	1,600	1,595	5	1,446	154	6.2%
医療経費	8,462	8,516	▼54	8,638	▼176	33.0%
薬品費	3,457	3,497	▼40	3,543	▼86	(H22 医療収
医療材料費	2,420	2,456	▼36	2,510	▼90	入比 46.3%)
給食材料費	240	243	▼3	235	5	(H21 医療収
医療検査費	131	127	4	128	3	入比 48.7%)
その他の医療経費	2,214	2,193	21	2,222	▼8	
管理経費	479	490	▼11	478	1	1.9%
借入金等利息	1	2	▼1	5	▼4	
減価償却・資産処分差額	2,706	2,643	63	2,705	1	10.5%
予備費	0	0	0	50	▼50	
消費支出の部合計	25,398	25,179	219	25,282	116	98.9%
収支差額	283	△164	447	8	275	1.1%
有価証券評価差額	1,393	260	1,133	0	1,393	
差引消費収支差額	△1,110	△424	▼686	8	▼1,118	

(表2) 資金収支計算書

(単位:百万円)

資金収入の部	① 22年度 決算	② 21年度 決算	差 異 ①-②	③ 22年度 予算	差 異 ①-③
資金を伴う帰属収入	25,668	25,009	659	25,280	388
帰属収入の部合計	25,681	25,015	666	25,290	391
非資金収入除外	△13	△6	▼7	△10	▼3
資産売却収入	0	0	0	0	0
借入金等収入	1,404	1,350	54	1,350	54
短期借入金収入	1,000	1,000	0	1,000	0
学校債収入	404	350	54	350	54
前受金収入	3,104	3,491	▼387	3,110	▼6
その他の収入	3,557	4,033	▼476	3,503	54
資金収入調整勘定	△6,875	△6,910	35	△6,491	▼384
期末未収入金	△3,384	△3,212	▼172	△3,000	▼384
前期末前受金	△3,491	△3,698	207	△3,491	0
資金収入の部合計	26,858	26,973	▼115	26,752	106
資金支出の部	① 22年度 決算	② 21年度 決算	差 異 ①-②	③ 22年度 予算	差 異 ①-③
資金を伴う消費支出	22,730	22,410	320	22,577	153
消費支出の部合計	25,398	25,179	219	25,282	116
非資金支出除外	△2,668	△2,769	101	△2,705	37
借入金等返済支出	1,482	1,561	▼79	1,400	82
借入金返済支出	1,000	1,000	0	1,000	0
学校債返済支出	482	561	▼79	400	82
施設関係支出	853	537	316	1,046	▼193
設備関係支出	734	832	▼98	737	▼3
資産運用支出	741	1,255	▼514	700	41
その他の支出	2,899	2,930	▼31	2,952	▼53
資金支出調整勘定	△2,676	△2,424	▼252	△2,521	▼155
期末未払金	△2,655	△2,424	▼231	△2,500	▼155
前期末前払金	△21	0	▼21	△21	0
資金支出の部合計	26,763	27,101	▼338	26,891	▼128
差引資金収支差額	95	△128	223	△139	234
前年度繰越支払資金	4,128	4,256	▼128	4,128	0
次年度繰越支払資金	4,223	4,128	95	3,989	234

(△は計算書式上のマイナス値) (▼は比較上の減少を表す)

(表3) 貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	① 22年度 決算	② 21年度 決算	増 減 ①-②	構成比率	
				①22年度	②21年度
固定資産	46,050	47,639	▼1,589	85.6%	86.4%
有形固定資産	33,000	34,101	▼1,101	61.3%	61.8%
土地	3,206	3,206	0		
建物	22,235	23,088	▼853		
構築物	666	711	▼45		
教育研究用機器備品	5,554	5,778	▼224		
その他の機器備品	54	57	▼3		
図書	1,236	1,230	6		
車輛	28	31	▼3		
建設仮勘定	21	0	21		
その他の固定資産	13,050	13,538	▼488	24.3%	24.5%
電話加入権、施設利用権	12	12	0		
有価証券、出資金他	11	11	0		
収益事業元入金	679	638	41		
長期貸付金	464	300	164		
退職給与引当特定資産	6,138	6,138	0		
減価償却引当特定資産	3,096	4,489	▼1,393		
施設拡充引当特定資産	1,700	1,000	700		
海外交流引当特定資産	500	500	0		
医学部奨学事業特定資産	400	400	0		
臨床研修奨学事業特定資産	50	50	0		
流動資産	7,763	7,519	244	14.4%	13.6%
現金預金	4,223	4,128	95		
未収入金	3,378	3,202	176		
貯蔵品	161	168	▼7		
前払金、仮払金	1	21	▼20		
資産の部 合計	53,813	55,158	▼1,345	100.0%	100.0%
負債の部	① 22年度 決算	② 21年度 決算	増 減 ①-②	構成比率	
				①22年度	②21年度
固定負債	11,095	11,218	▼123	20.6%	20.3%
学校債	3,529	3,605	▼76		
退職給与引当金	7,566	7,613	▼47		
流動負債	6,473	6,585	▼112	12.0%	11.9%
学校債	375	377	▼2		
未払金	2,655	2,424	231		
前受金	3,104	3,491	▼387		
預り金、仮受金	339	293	46		
負債の部 合計	17,568	17,803	▼235	32.6%	32.3%
正味財産の部 合計	36,245	37,355	▼1,110	67.4%	67.7%
負債及び正味財産の部 合計	53,813	55,158	▼1,345	100.0%	100.0%

(▼は比較上の減少を表す)

2. 最近5ヶ年の財務状況

(1) 消費収支の状況

(単位:百万円)

科 目		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
収入の部	学生生徒等納付金	4,412	4,583	4,593	4,803	4,964
	手数料	157	158	157	139	159
	寄付金	851	735	564	559	631
	補助金収入	1,529	1,429	2,036	1,449	1,148
	資産運用収入	842	970	389	219	150
	事業収入	179	207	205	232	258
	医療収入	16,713	16,995	17,020	17,500	18,271
	雑収入	216	122	135	114	100
帰属収入合計	24,899	25,199	25,099	25,015	25,681	
支出の部	人件費	11,324	11,455	11,571	11,933	12,149
	教育研究経費	2,002	2,255	2,296	2,356	2,292
	医療経費	9,697	9,868	10,250	10,280	10,259
	管理経費	662	605	621	593	584
	借入金等利息	1	0	0	2	1
	資産処分差額	193	10	3,576	264	1,500
	徴収不能額等	50	17	6	11	6
	消費支出の部合計	23,929	24,210	28,320	25,439	26,791
収支差額	970	989	△ 3,221	△ 424	△ 1,110	

(2) 資金収支の状況

(単位:百万円)

科 目		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,412	4,583	4,593	4,803	4,964
	手数料収入	157	158	157	139	159
	寄付金収入	807	720	531	553	620
	補助金収入	1,529	1,429	2,036	1,449	1,148
	資産運用収入	842	970	389	219	150
	事業収入	179	207	205	232	258
	医療収入	16,713	16,995	17,020	17,500	18,270
	雑収入	216	122	135	114	98
	借入金等収入	861	510	1,318	1,350	1,404
	前受金収入	4,353	3,929	3,698	3,491	3,104
その他の収入	5,766	3,751	4,679	4,033	3,558	
資金収入調整勘定	△ 7,774	△ 7,726	△ 7,663	△ 6,910	△ 6,875	
合計	28,061	25,648	27,098	26,973	26,858	
支出の部	人件費支出	11,445	11,441	11,389	11,839	12,194
	教育研究経費支出	1,321	1,498	1,552	1,595	1,601
	医療経費支出	8,213	8,201	8,587	8,485	8,455
	管理経費支出	600	535	557	490	479
	借入金等利息支出	1	0	0	2	1
	借入金等返済支出	747	366	1,532	1,561	1,482
	施設関係支出	2,935	242	3,067	537	853
	設備関係支出	1,646	1,371	1,115	832	734
	資産運用支出	650	950	1,033	1,255	741
	その他の支出	2,625	3,007	2,717	2,929	2,899
資金支出調整勘定	△ 2,674	△ 2,382	△ 2,450	△ 2,424	△ 2,676	
合計	27,509	25,229	29,099	27,101	26,763	
差引資金収支差額	552	419	△ 2,001	△ 128	95	
前年度繰越支払資金	5,286	5,838	6,257	4,256	4,128	
次年度繰越支払資金	5,838	6,257	4,256	4,128	4,223	

(3) 貸借対照表

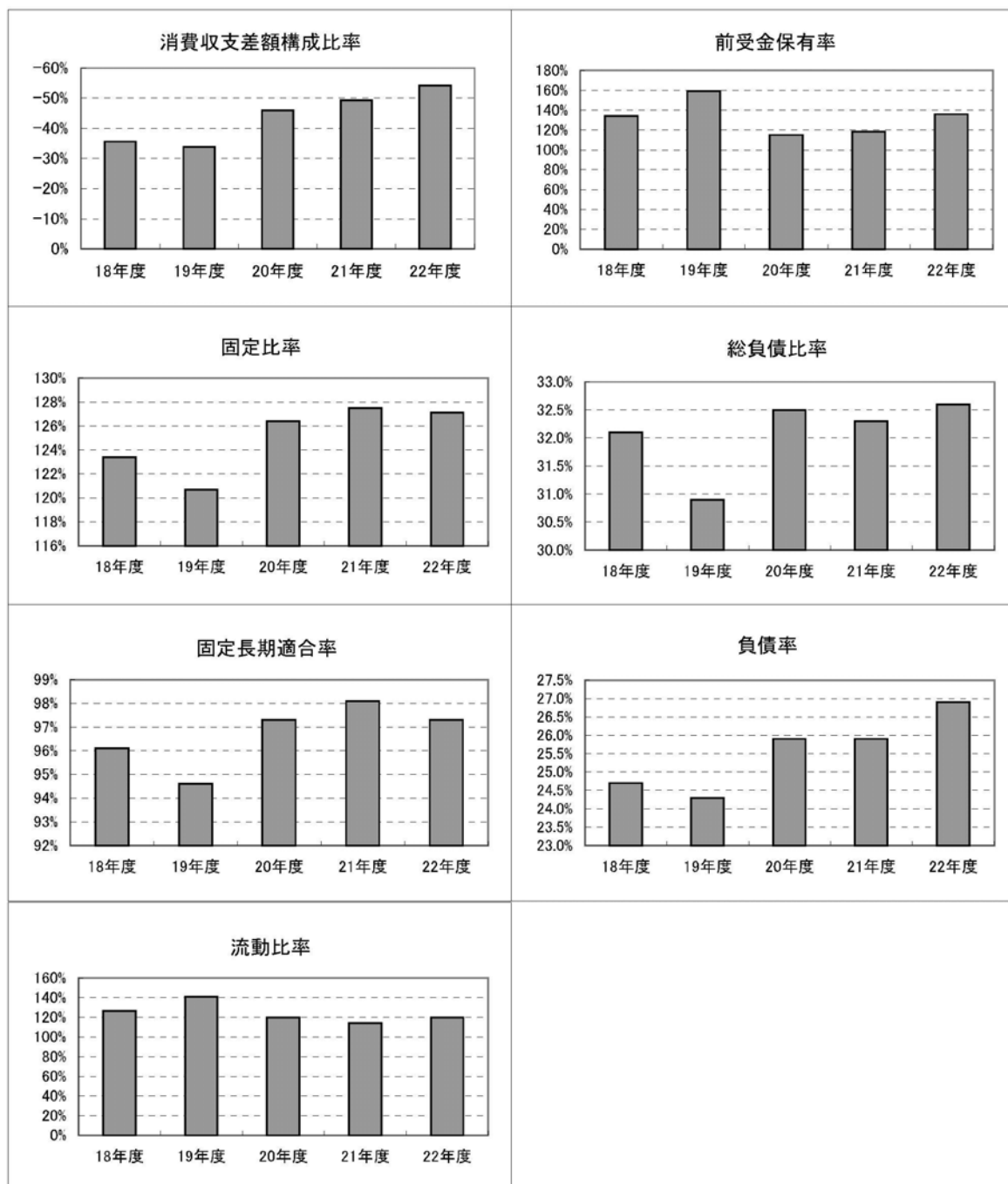
(単位:百万円)

資 産 の 部					
科 目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
固 定 資 産	49,369	49,497	47,754	47,639	46,050
土地	3,098	3,098	3,206	3,206	3,206
建物	24,066	22,863	23,992	23,088	22,235
構築物	826	760	759	711	665
教育研究用機器備品	5,428	5,820	5,959	5,778	5,554
その他の機器備品	68	65	60	57	54
図書	1,208	1,217	1,225	1,230	1,237
車輛	20	28	35	31	28
建設仮勘定	0	0	123	0	21
退職給与引当特定資産	5,138	5,638	6,138	6,138	6,138
減価償却引当特定資産	8,100	8,100	4,749	4,489	3,096
施設拡充引当特定資産	1,000	1,000	0	1,000	1,700
医学教育海外交流引当特定資産	150	500	500	500	500
医学部奨学事業引当特定資産	200	300	400	400	400
臨床研修奨学事業引当特定資産	0	0	0	50	50
その他の固定資産	67	108	608	961	1,166
流 動 資 産	9,531	9,819	8,183	7,519	7,764
現金預金	5,838	6,257	4,256	4,128	4,222
未収入金	3,471	3,357	3,728	3,202	3,379
その他の流動資産	222	205	199	189	163
資 産 の 部 合 計	58,900	59,316	55,937	55,158	53,814
負 債 の 部					
科 目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
固 定 負 債	11,366	11,344	11,322	11,218	11,095
学校債	4,043	4,007	3,803	3,605	3,529
退職給与引当金	7,323	7,337	7,519	7,613	7,566
流 動 負 債	7,523	6,972	6,836	6,585	6,473
学校債	220	400	390	377	375
未払金	2,661	2,363	2,433	2,424	2,655
前受金	4,353	3,929	3,698	3,491	3,104
預り金、仮受金	289	280	315	293	339
負 債 の 部 合 計	18,889	18,316	18,158	17,803	17,568
正 味 財 産 の 部 合 計	40,011	41,000	37,779	37,355	36,246
負債及び正味財産の部合計	58,900	59,316	55,937	55,158	53,814

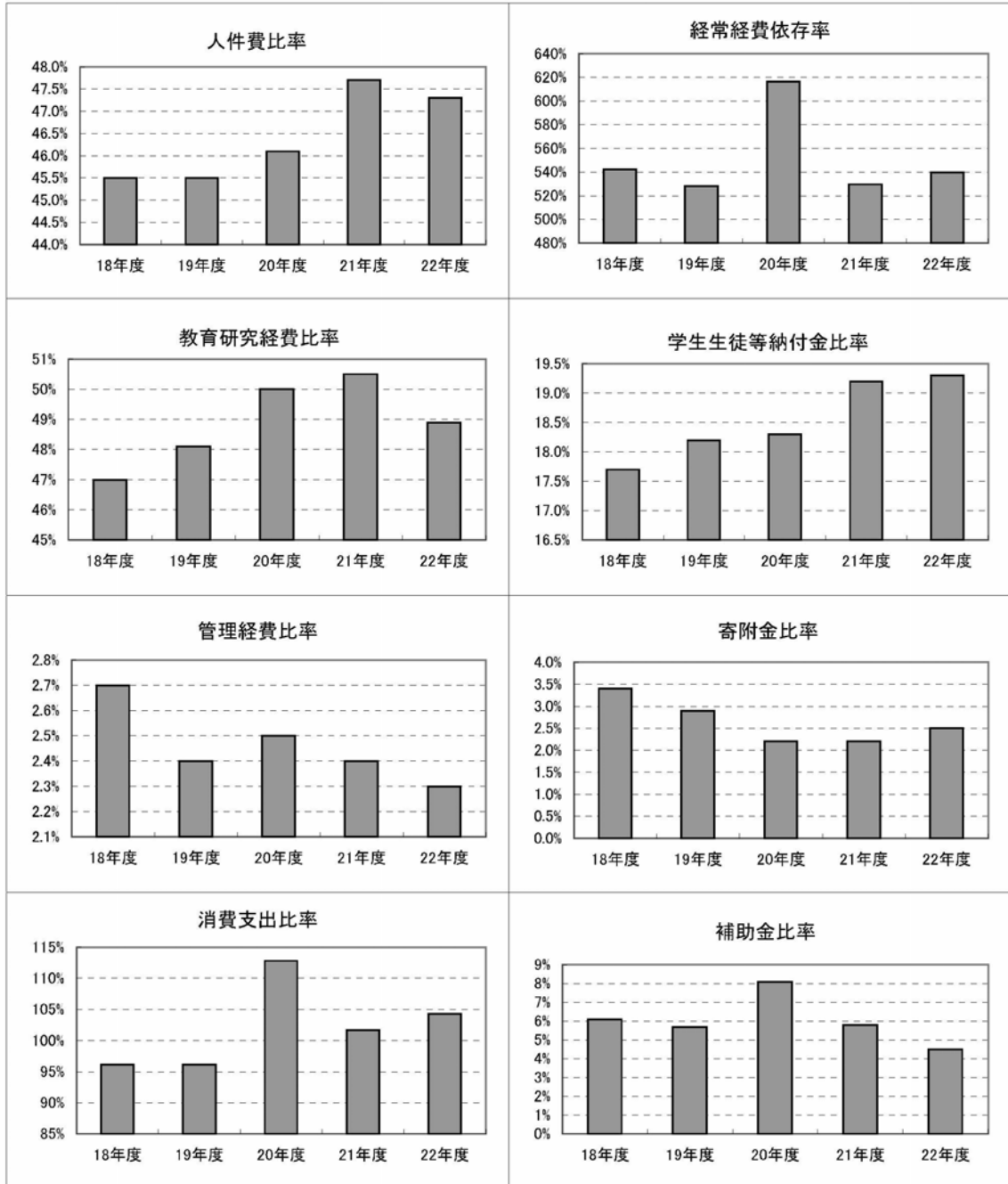
(4) 財務比率経年比較表

分類	比 率	算式 (×100)	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総 資 金}}$	-35.6%	-33.9%	-46.0%	-49.4%	-54.2%
	固 定 比 率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金}}$	123.4%	120.7%	126.4%	127.5%	127.1%
	固 定 長 期 適 合 率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	96.1%	94.6%	97.3%	98.1%	97.3%
	流 動 比 率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	126.7%	140.8%	119.7%	114.2%	119.9%
	前 受 金 保 有 率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	134.1%	159.2%	115.1%	118.2%	136.0%
	総 負 債 比 率	$\frac{\text{総 負 債 金}}{\text{総 資 金}}$	32.1%	30.9%	32.5%	32.3%	32.6%
	負 債 率	$\frac{\text{総負債-前受金}}{\text{総 資 産}}$	24.7%	24.3%	25.9%	25.9%	26.9%
消 費 収 支 計 算 書	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	45.5%	45.5%	46.1%	47.7%	47.3%
	教 育 研 究 経 費 比 率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	47.0%	48.1%	50.0%	50.5%	48.9%
	管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	2.7%	2.4%	2.5%	2.4%	2.3%
	消 費 支 出 比 率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	96.1%	96.1%	112.8%	101.7%	104.3%
	【 経 常 経 費 依 存 率 】	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	542.4%	528.2%	616.5%	529.6%	539.7%
	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	17.7%	18.2%	18.3%	19.2%	19.3%
	寄 付 金 比 率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	3.4%	2.9%	2.2%	2.2%	2.5%
	補 助 金 比 率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	6.1%	5.7%	8.1%	5.8%	4.5%

主な財務比率の経年比較(貸借対照表関係)



主な財務比率の経年比較(消費収支計算書関係)



3. 平成22年度金沢医科大学氷見市民病院決算の概要(表4参照)

《損益計算書》

医業収益は前年比2億8千4百万円増の42億5百万円、医業費用が前年比2億円増の45億8百万円で、差引医業収益は3億3百万円の支出超過となり、医業外収益3億6千5百万円を含めた当期経常利益は前年比1億1千3百万円増の6千2百万円の収入超過となった。

医業収益

入院収益は前年比2億7千2百万円増の25億1千3百万円、外来収益は前年比2千5百万円増の16億8千3百万円、治験等の受託事業収益は2百万円、テナント家賃や駐車場賃貸料等の施設設備利用収益は7百万円となった。

医業費用

材料費が前年比4千9百万円増の13億3千3百万円、給与費が前年比1億3千5百万円増の23億8千1百万円、委託費が4億3千4百万円、設備関係費が7千5百万円、その他の経費で2億5百万円、氷見市への指定管理者負担金で8千万円となった。

医業外収益

寄付金収益で8百万円、氷見市からの交付金3億4千8百万円を含めた補助金収益は3億5千4百万円となった。

《貸借対照表》

資産総額は前年比5千3百万円増の11億3千7百万円、負債総額は前年比5千万円減の4億9千9百万円、純資産は前年比1億3百万円増の6億3千8百万円となった。

流動資産

流動資産は10億9千3百万円となった。

うち、現金預金は7百万円、未収入金は10億2千1百万円、貯蔵品は6千3百万円となった。

固定資産

固定資産は医療機器の購入ほかで4千4百万円となった。

流動負債

流動負債は4億2千4百万円となった。

うち、未払金は2億5千9百万円、預り金は3千9百万円、賞与引当金は1億2千6百万円となった。

固定負債

退職給付引当金は7千5百万円となった。

純資産

大学会計からの収益事業元入金は4千1百万円増の6億7千9百万円となった。

以 上

(表4) 金沢医科大学氷見市民病院 損益計算書及び貸借対照表

《損益計算書》

(単位:百万円)

科 目	決 算 額	前年比	科 目	決 算 額	前年比
	金 額	金 額		金 額	金 額
医業収益	4,205	284	医業費用	4,508	200
入院収益	2,513	272	材料費	1,333	49
外来収益	1,683	25	給与費	2,381	135
受託事業収益	2	▼13	委託費	434	10
施設設備利用収益	7	0	設備関係費	75	▼3
			経費	205	9
			指定管理者負担金	80	0
			医 業 利 益	△ 303	84
医業外収益	365	29	医業外費用	0	0
寄付金収益	8	▼7			
補助金収益	354	40			
雑益	3	▼4	経 常 利 益	62	113

《貸借対照表》

(単位:百万円)

科 目	決 算 額	前年比	科 目	決 算 額	前年比
	金 額	金 額		金 額	金 額
流動資産	1,093	50	流動負債	424	▼64
現金及び預金	7	▼2	未払金	259	▼66
未収入金	1,021	66	預り金	39	▼3
徴収不能引当金	△ 6	▼2	賞与引当金	126	5
貯蔵品	63	▼14	その他	0	0
その他	8	2	固定負債	75	14
固定資産	44	3	退職給付引当金	75	14
工具器具備品	44	3	負債の部合計	499	▼50
			純資産	638	103
			元入金	679	41
			利益剰余金	△ 41	62
			純資産の部合計	638	103
資 産 の 部 合 計	1,137	53	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,137	53

金沢医科大学
平成22年度 事業報告書

発行日 平成23年5月30日
発行者 学校法人 金沢医科大学理事長 竹越 襄
企画・編集 経営企画・広報部
経理管財部
発行所 金沢医科大学出版局
〒920-0293
石川県河北郡内灘大学1丁目1番地
電話 076-286-2211(代表)